

製品名: カスパーゼ-14 ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe87231

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:10-1:100,IP 1:10-1:100
分子量	Calculated MW:28 kDa; Observed MW:28 kDa

抗原情報

遺伝子名	Caspase-14
別名	ARCI12
遺伝子 ID	23581
SwissProt ID	P31944
免疫原	ヒトカスパーゼ 14 の合成ペプチド

背景

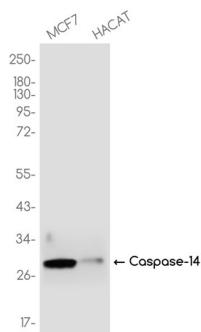
この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードしています。カスパーゼの連

続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解プロセッシングを受け、大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体化して活性酵素を形成します。このカスパーゼは、in vitro ではカスパーゼ8およびカスパーゼ10によって、in vivo では抗 Fas アゴニスト抗体または TNF 関連アポトーシス誘導リガンドによってプロセッシングおよび活性化されることが示されています。このカスパーゼの発現とプロセッシングは、皮膚バリアの形成に重要なケラチノサイトの終末分化に関与している可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月]

研究分野

-

画像データ



カスパーゼ 14 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した、MCF-7、HACAT 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。